

理解度&釣れる度100%

丸

マルキュー

優良 餌本



®

# パワーエサ パワーグッツ



## Contents

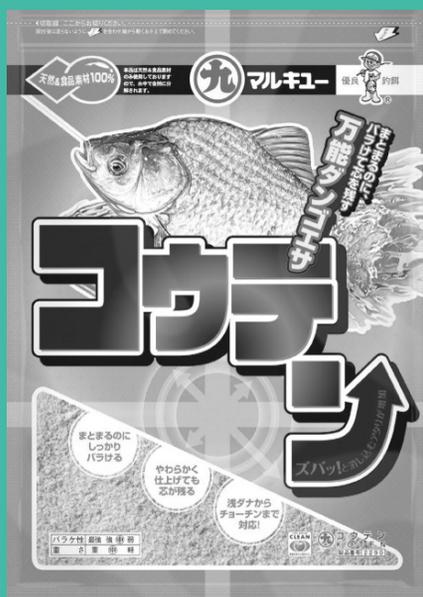
- 02 万能ダンゴエサ「コウテン」登場!!
- 04 両ダンゴの宙釣り
- 12 ペレ宙
- 18 「ヒゲトロ」セットの宙釣り
- 24 ウドンセットの宙釣り
- 30 両ダンゴの底釣り

# 夏秋号 2020

HERA BAIT POWER BOOK

# エサ「コウテン」登場!!

へら鮎用配合エサ性質表のど真ん中に位置することから、麩系・ダンゴエサのベースとなる存在が新発売の「コウテン」です。特徴として、まとまりやすく、かつバラけるエサを、より簡単に作ることができます。ボソタッチに仕上げた基エサを少しずつやわらかく仕上げていく両ダンゴの手直しがしやすく、かなり軟らかくしてもしっかりと芯が残るので、積極的なエサ調整が可能。さらに仕上げたタッチと性質が長続きするため、釣れる時合を長続きさせることもできます。使えるタッチの幅が広いのであらゆる状況にも対応できます。もちろん、浅いタナから長竿のチョーチンまで使えます。



重さ ■■■■□□  
バラケ性 ■■■■□□

## ヒゲトロセットのバラケ

「コウテン」400cc+ 「カルネバ」200cc+  
「バラケマッハ」200cc+水200cc+ 「BBフラッシュ」100cc

## ペレット系両ダンゴ

「コウテン」400cc+ 「ペレ軽」400cc+  
水200cc+ 「浅ダンナー本」100cc

# すべてのベクトルに対応する万能ダンゴ

## 現代両ダンゴエサのと真ん中！

### ●オススメ基本ブレンド（パッケージ裏書き）

やわらかめのタッチに仕上げる場合

「コウテン」400cc+

「ガッテン」400cc+

水200cc

ボソタッチに仕上げる場合

「コウテン」400cc+

「凄麩」400cc+

「BB フラッシュ」200cc+

水200cc

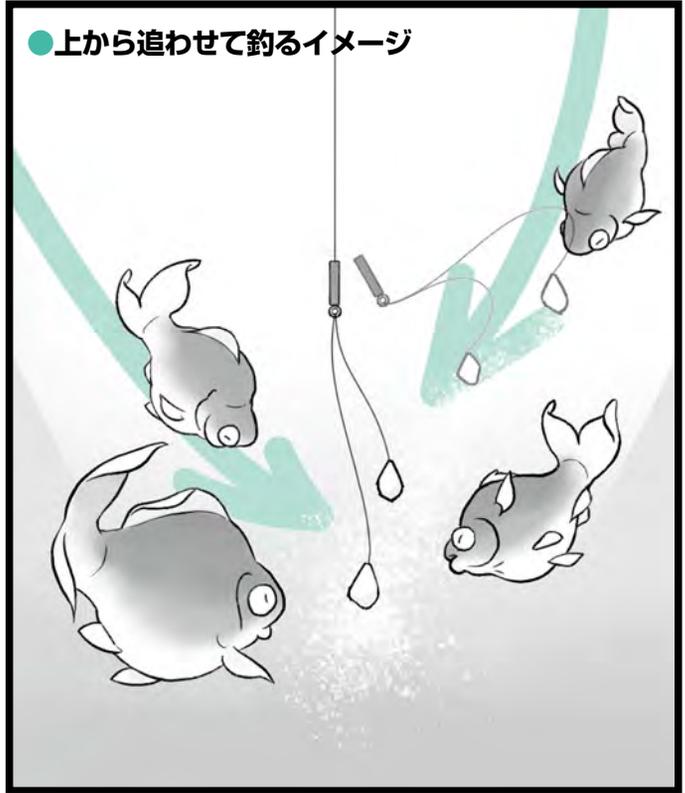
### ●パワーブックおすすめブレンド

**両ダンゴ**

「バラケマッハ」400cc+ 「コウテン」200cc+

「カルネバ」200cc+水200cc+

「浅ダナー本」100cc



高い位置でトメやサワリが出るがエサがナジんでしまうとウキの動きが静かになってしまうときに有効な上からのアプローチ。

ねらいのタナよりも上からエサを追わせて釣る方法。もうひとつは、ねらいのタナへエサを届けてアタらせる釣り方です。

これは、浅ダナでもチヨーチンでも同じです。また、どちらのアプローチでも釣れますが、釣り場・魚の状況や傾向、日並みや時間帯などでも変わります。できれば、状況に合わせてるようにこの2パ

ターンを使い分けられればベストです。

この2つのアプローチの違いによって変わってくるのは、エサのブレンドとハリスの長さです。前者の上からエ

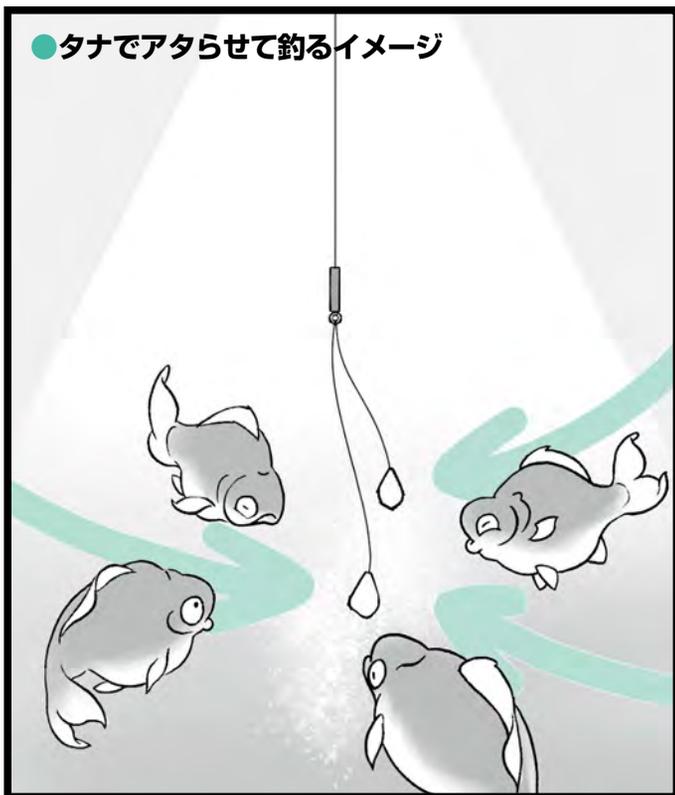
両ダンゴ釣りは盛期の代表的な釣り方で、強いウキの動き、釣りが決まったときの面白さ、爆発的な釣果などが魅力。近年、盛期であっても混雑などにより両ダンゴで釣

り切れないシーンもあります。が、やはり夏は両ダンゴの釣りを楽しみたいところですから、両ダンゴの釣り方は、大きく2つのアプローチに分けることができます。ひとつは、

# 両ダンゴ釣りのアプローチ

## 方向性は2パターン!!

### ● タナでアタらせて釣るイメージ



エサを深くしっかりナジませてからサワリが出てアタリに連動するパターン。安定した時合が長く続く傾向の基本形。

サを追わせて釣る場合は、落下中のアピールが必要になりますので、エサは軽め、ハリスは長めとなります。逆に後者のタナへエサを届けてアタ

らせる場合は、落下中に必要以上に捕まらないようにするため、エサの開きを抑え、ハリスも短めにするというのが一般的な考え方になります。これに加えて、エサのタッチと大きさを探っていきます

が、このエサのタッチとサイズを探すことこそ両ダンゴ釣りの醍醐味です。タッチとサイズが決まれば面白いように釣れる、誰もが爆釣できる可能性があるので。

また、この考え方はチョーチン釣りでも同じこと。タナが深いからといって必要以上に大きなエサは必要ありません。タナまでエサを持たせられれば、アプローチは同じ。大きなウキ(オモリ負荷量を多くする)や浅ダナよりワンサイズないし2サイズ大きなハリを使えばいいだけです。

# セッティングで対応しよう!!

前頁でも触れましたが、両ダンゴ釣りにおいて、狙うタナでエサのブレンドを変える必要性は少ない傾向にあります。それは、へら鮒が食うエサはタナの違いで大きな差があるわけではないからです。つまり、浅タナで食うエサをチョーチンのタナで同じ状態にできれば問題なく食うということです。

このとき問題になるのが、タナが深くなることで同じエサが持たなくなることで、これを補うために、手直しやブレンド変更によって、エサに重さを付けたり、ネバリを強くしたりしますが、これでは食うエサが変わってしまいます。

そこで、エサを変えることなくタナまで届けさせるにはどうするか？ 一番分かりますのは、ウキを大きくすることです。ウキが大きくなれば、オモリ負荷量が増えますので、当然タナまで早くエサを届けることができます。もちろんこれだけでは補えないこともあります。そういう場合は、ハリスを詰めたり、ハリサイズを大きくしたりして対処します。

なぜ、このようにセッティングの変更で対応するかといえ、エサをあれこれいじったり、ブレンドを変えるよりも失敗が少なく、釣りの組み立ても楽だからです。

分かりやすく言えば、エサを固定することは、すなわちエサに問題がないという自信です。釣れない理由をエサのせいになくして済むということ。そうならば、**必ずと釣れるようにセッティングを変えていくという選択肢がなくなります。**すると、迷いが少なくなり、ぐっと釣りが楽になるので

それでも……、という方もいるでしょう。ですから、次頁から状況に合わせておすすめる2パターンのエサのブレンドを用意しました。必ずどちらかのパターンで結果がでるはずですので、試してください。

# 浅ダナもチョーチンもエサは同じ！

## ●タックルセッティング

### ■浅ダナ推奨仕掛け

★上から追わせて釣るパターン  
竿●7～10尺  
ミチイト●1号  
ウキ●ポディー5～8cmパイプトップまたはPCムクトップ  
ハリス●0.5～0.6号上30～40cm、下40～50cm  
ハリ●上下5～6号

★タナでアタらせて釣るパターン  
竿●7～10尺  
ミチイト●1号  
ウキ●ポディー5～8cmパイプトップ  
ハリス●0.5～0.6号上20～30cm、下30～40cm  
ハリ●上下5～6号

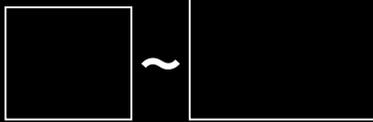
### ■チョーチン推奨仕掛け

★上から追わせて釣るパターン  
竿●8～21尺  
ミチイト●1～1.2号  
ウキ●ポディー8～14cm PCムクトップまたはグラスムクトップ  
ハリス●0.5～0.6号上45～55cm、下60～70cm  
ハリ●上下6～7号

★タナでアタらせて釣るパターン  
竿●8～21尺  
ミチイト●1～1.2号  
ウキ●ポディー8～16cmパイプトップ  
ハリス●0.5～0.6号上35～45cm、下45～55cm  
ハリ●上下6～8号

### ■実寸大オモリ

浅ダナ



0.25mm厚板オモリ 15mm×17mm～17mm×25mm

チョーチン

「絡み止めスイッチシンカー」0.8g

+

短竿

0.25mm厚板オモリ  
17mm×26mm

「絡み止めスイッチシンカー」2.0g

+

長竿

0.25mm厚板オモリ  
17mm×26mm



+



+



+



### ●エサ使いのコツ

できあがったエサを別ボウルに半分ほど小分けし、軽く押し練りを加えてエアーを抜いてから使います。

まずは丸めてエサ付けしてナジミ幅がでるかを確認。打ち始めは魚がいない状態なので、トップ先端までしっかりナジむぐらいの状態にします。打ち始めでエサがナジまないのはNG。押し練りを繰り返してナジミ幅をだすようにします。

次第に魚が寄ってウキに動きが始めるでしょう。この際に、魚にサワ

# 両ダンゴのブレンドパターン①

軽さでアピールし上から追わせて釣るブレンド

## ●エサブレンド

**「カルネバ」300cc+**  
**「バラケマツハ」200cc+**  
**「凄麩」200cc+**  
**水200cc**

### ●作り方

「カルネバ」300cc、「バラケマツハ」200cc、「凄麩」200ccをエサポウルに入れて粉の状態ですべてをかき混ぜる。ネバリの強い「カルネバ」をブレンドするときは、粉の状態ではほかの麩エサと混ぜておくことで仕上がりが均一になる。ここに水200ccを入れ、手を熊手状にしてよくかき混ぜて全体にムラがないように仕上げる。

られてもエサが付いているようにします。ちょっとサワリがあってもすぐにウキがあがってくるのは、エサがハリから抜けた証拠。これではアタリができませんので、何度かサワリがあってもエサが持つ（ナジミ幅がでている）状態にします。

エサの持ち加減の調整は、打ち始めは押し練りでいいですが、魚の寄りが増えてくるとエサを練らないと持たなくなりまます。そういうときは、エサ全体をかき混ぜるようにして練りを加えます。このとき、人差し指から



+



+

### ●エサの大きさ

実寸大



+



+



小指の4本を揃えて混ぜると練りが強くなります。指を開いた状態で混ぜると弱めになります。エサを少しだけ練りたいときは指を開き気味、強く練りたいときは指を揃えて混ぜます。もつとネバリを強くするには、エサをボウルにこすりつけて練ります。

このエサを粘らせていく手直しと同時にタツチの調整も行ないます。基本的にはエサを手直しする際には手に水を付けた状態で行ないます。粘りが強いとエサの開き・膨らみが悪くなります。開

## 両ダンゴのブレンドパターン②

ナジんで膨らみ、タナで当たらせるブレンド

### ●エサブレンド

「GD」100cc+

「カルネバ」200cc+

「バラケマツハ」200cc+

「凄麩」200cc+

水200cc

### ●作り方

「GD」100cc、「カルネバ」200cc、「バラケマツハ」200cc、「凄麩」200ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてをかき混ぜる。「GD」や「カルネバ」など特性の強いエサをブレンドするときは、粉の状態ではかの麩エサと混ぜておくと仕上がりが均一になる。ここに水200ccを入れ、よくかき混ぜて全体にムラがないように仕上げる。

き・膨らみが少ないと、へら鮎へのアピールが弱くなりますし、食いにきたへら鮎がエサを吸い込みにくい状態になり、サワリやアタリが減ります。それを補うのが手水という作業なのです。

エサを持たせるといふ点からみれば、エサを練る方向の手直しですが、エサをへら鮎に食わせるという点から見ると、エサを軟らかくする手直しが必要です。エサを持たせることと食わせることの調整を繰り返して釣っていくのが両ダンゴのエサ合わせなのです。

ペレ宙とは、ペレット系のエサを使用した両ダンゴの宙釣りです。ペレットを使用することで、集魚力を高めるとともに大型が揃えられることから、へら鮎の活性が高まる夏場に有効な釣り方です。数多くのへら鮎を寄せ、それに負けないような強い（重い）エサを打ち、強いアタリに的を絞ることで、大型を狙うのがペレ宙の魅力です。

以前はペレットが多い重めのエサで、長竿を使って沖を狙うと、面白いように大型が揃う釣りが主流でした。特に混雑したときなどは、尻上がりに威力を発揮し、勝負になることも多かったのです。

しかし、近年はこのような釣り方で爆釣する場面が少な

くなっています。しかし、ペレットエサの効果はいまだ健在で、ペレ宙も少しずつ変化しながら、有効な釣りのひとつとして知られています。

ペレ宙のメリットは、

①へら鮎を数多く寄せられる  
ペレットは麩系エサより集魚力が高く、混雑時でも寄せ負けしにくい。へら鮎を多く寄せることでアタリが増え、釣りの回転もよくなる。

②比較的良型が揃う

ペレットエサを好む良型が寄るので、必然的に型が揃いやすい。タナが安定し好時合が訪れると、釣れば良型というこの釣りの醍醐味が味わえる。当然、重量を稼げるので、例会などでも有効。

③アタリは明確で絞りやすい

食い気のある良型をターゲットにするので、当然本命のアタリは力強いものになる。小さいアタリや緩めのアタリを送り、そのあとにできる強いアタリだけに的を絞ることができるので、釣りが決まりやすい。

④ウワズリにくい

余計な動きを送ることに加え、ペレットの特徴である重さが効果を発揮し、へら鮎のウワズリを少なくできる。

最近の傾向としては、ペレットが軽めになっっています。その証拠として「ペレ軽」をベースにブレンドを組み立てるのが主流です。この「ペレ軽」は、ペレット配合でありながら、軽くソフトな仕上がりになるので、通常の両ダ

# ペレ宙のアプローチ

ペレットエサの有効性を活かそう！



ペレットエサが有効な釣り場では、明らかに良型が揃うこともしばしば。力強いアタリに的を絞ることがポイントだ。

ンゴ感覚で使える特徴があります。

釣り方は、混雑時は長竿で沖狙い。タナは1〜1.5mに設定。以前のようにドツカンドツカんと大型ばかりが揃うとは限りませんが、それでも明らかにペレット効果が感じられるような型揃いの釣りが味わえます。

空いている場合は、竿を短くします。10〜12尺ぐらいの竿で通常の両ダンゴと同じように釣りますが、ペレット効果でへら鯛の寄りを増やせませし、良型のへら鯛が混じる確率も増えます。どちらも極端な太仕掛けにする必要はなく、通常の両ダンゴと同じか、少し強めで問題ありません。

いまや通常の両ダンゴ釣りの延長にあるペレ宙は、特別な釣り方ではありません。そのことは、タックルを見ても分かるように、両ダンゴのそれとほぼ同じです。シンプルにペレット系のエサがその日に効くのか効かないのか、その差程度の認識で充分といえます。

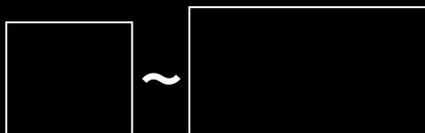
ただ、日並みや釣り場によって明らかにペレットが有効な場合があります。そのときは、少しでも強めのタックルにしてください。そして、前頁で触れたアタリの取り方だけに注意すれば、ペレ宙ならではの面白い釣りが味わえます。

## ● タックルセッティング

### ■ 推奨仕掛け

竿● 10～18尺  
ミチイト● 1号  
ウキ● ボディー6～10cmパイプ  
トップまたはPCムクトップ  
ハリス● 0.5号上30～40cm、下40～50cm  
ハリ● 上下6～7号

### ■ 実寸大オモリ



0.25mm厚板オモリ 15mm×17mm～17mm×32mm

## ● エサ使いのコツ

できあがったエサを別ボウルに半分ほど小分けし、軽く押し練りを加えてエアーを抜いてから使い始めます。両ダンゴと同じように、しっかりとナジミ幅がでるかを確認してください。ナジミが少ないときは、押し練りを繰り返してナジミ幅をだすようにします。

次第に魚が寄ってウキに動きがで始めるでしょう。魚が寄っても打ち始めと同じナジミ幅をキープするようにします。ウキの動きをみながら、そ

# ペレ宙のブレンドパターン①

ペレットを強調して大型ねらい

## ●エサブレンド

**「ペレ軽」500cc+**  
**「BB フラッシュ」400cc+**  
**水200cc**



+



+



## ●作り方

「ペレ軽」500 cc、「BB フラッシュ」400 ccをエサボウルに入れて粉の状態  
で全体をかき混ぜる。ここに水200 cc  
を入れ、手を熊手状によくかき混  
ぜて全体にムラがないように仕上げる。

## ●エサの大きさ

実寸大





+



+

## ●エサの大きさ

実寸大



+



の都度押し練りを加え、エサの持ち具合を調整しましょう。

ペレットは、重さとネバリがあるので、比較持たせやすいエサです。それでも最盛期の大型魚の強烈なアタックにより、エサ持ちがあまくなることがあります。そういう場合は、押し練りだけではなく、練り込む作業も必要です。

ただ、ペレット系エサはネバリが強くなりやすいので、エサを練りすぎると、へら鮎の反応が極端に悪くなることがあります。そういう場合は、

## ペレ宙のブレンドパターン②

通常の両ダンゴ感覚で使えるブレンド

### ●エサブレンド

**「ペレ軽」400cc+**  
**「ガッテン」400cc+**  
**「BB フラッシュ」200cc+**  
**水200cc**

### ●作り方

「ペレ軽」400 cc、「ガッテン」200 cc、「BB フラッシュ」200 ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてをかき混ぜる。ここに水200 ccを入れ、よくかき混ぜて全体にムラがないように仕上げる。

基エサを足してエサを復活させてください。このときは、使っているエサと同量の基エサを足します。これでエサ持ちが悪ければ、再び押し練りを加えるようにします。

それでも反応がいまいちなときは、裏技として「粒戦細粒」をパラパラと振りかけます。水中でエサからこぼれ落ちる「粒戦細粒」がへら鮒を刺激して反応がよくなるのです。ただし、入れすぎるとエサがバラけすぎてしまうので、ちょっとした隠し味として試してみてください。

「ヒゲトロ」セツト釣りは、盛期の食い渋りや混雑時に、両ダンゴではサワリはあるのに明確なアタリがでないといった状況で威力を発揮します。ダンゴエサへ興味を示すものの食いまでにつながらない場面で、ダンゴの近くにある「ヒゲトロ」を吸い込ませるセツト釣りです。

この釣り方の一番のポイントは、バラケエサをしつかりナジませること、タナにしっかりとバラケエサを届けることが重要です。そして、ここに近づいたへら鮒が近くにある「ヒゲトロ」を吸い込む。これは浅ダナでもチョーチンでも共通です。

なぜしつかりナジませることが重要かといえば、「ヒゲ

トロ」セツト釣りはタナにへら鮒を凝縮して釣り込む釣りだから。広範囲のへら鮒をねらうのではなく、バラケエサに近づくへら鮒をターゲットにして確実に食わせるのが、この釣り方のキモになります。ですから、ハリスも極端に短い釣りになるのです。

こうすることで、時間とともに好時合を作り上げ、高いヒット率とともに良型を揃えられるようになります。すると、盛期の食い渋りや混雑時に両ダンゴで苦勞するなか、「ヒゲトロ」セツトで鬼決まりということがよく起きるのです。

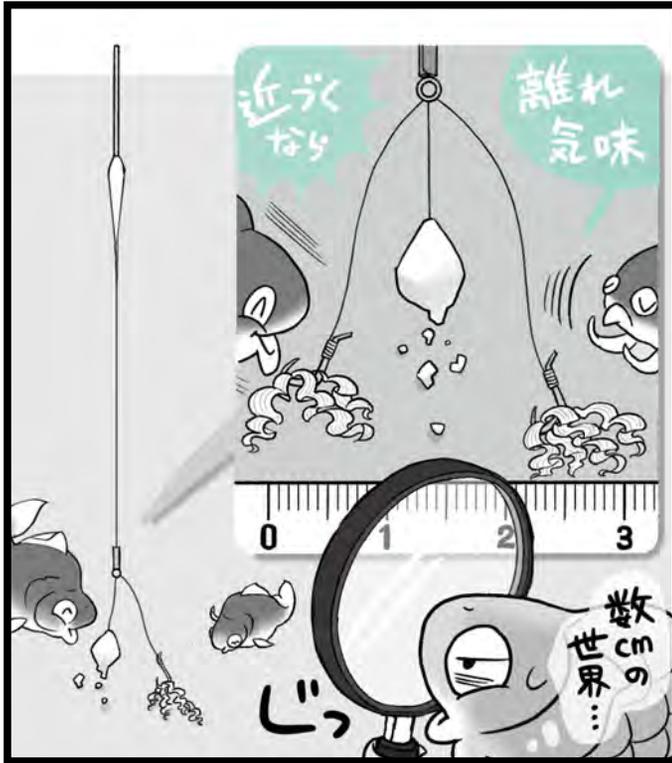
バラケエサがナジンでいくときは、それほど強いサワリがなく、ナジンでからサワリ

がでて、バラケエサが付いている状態でスバツとウキが消し込む。これが基本的な動きです。より状態がいいときは、サワリながらナジンでそのまま豪快なアタリがでることもあります。こうなれば、誰でも釣れると思えるようなウキ動きで、この釣りにハマると間違いありません。

注意する点としては、先に触れたように必ずバラケエサをしつかりナジませること。それなりにタナまで持つ程度ではなく、しつかり持たせること、それこそウキのトップが沈没するぐらいのイメージです。

そして、短いからこそハリスワークとそれにもなうハリサイズ(重さ)が重要になっ

# 「ヒゲトロ」セット釣りのアプローチ とにかくバラケエサをしっかりとナジませること！



バラケエサを深くしっかりとナジませてからサワリがあり、その後**に強いアタリ**がでるのが基本形。状況に合わせて下ハリスを調整して、最後に強いアタリがでるように対応する。

てきます。ハリスの長さは、短いだけに1〜2cm単位での調整が求められます。そんな細かいの？と思うかもしれませんが、**狭い（下ハリス14〜22cm）**

ので、この間での調整となれば、**必ずと1〜2cm単位になるのです。**この対応は面倒だと思われ方は、ハリスの長さを固定し、ハリスサイズを4〜6号で

使い分けるという方法もあります。ハリスを軽くするとハリスを長くしたときと同様の効果が得られ、ハリスを重くすればハリスを短くしたときと同様の効果を得ることができま

す。

もちろん、ハリスとハリスの調整を複合的に合わせて対応することができればよりシビアにアジャストできますので、色々試してみるといいでしょう。いずれにしても、**渋めならハリス長く（段差広く）、ハリ軽く、活性が高いならハリス短く（段差狭く）、ハリ重く**となることだけは覚えておきましょう。

# 実は竿の長さが重要だ！

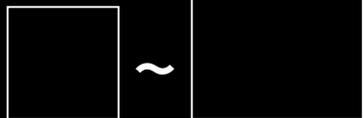
ウキはバラケエサをタナでしっかりと支えられるパイプトップが基本です。ただし、きつちりタナで釣れるときはいいですが、盛期の釣りですのでタナより上層からの動きが強くなることも多くなります。そこで、エサをタナへ入れやすくするために、同じパイプトップでも細めが最適です。同じ理由でPCムクトップを選択するのもいいでしょう。さらに、極端に上層へ魚が上がる傾向のある池では、グラスムクトップが有効な場面もあります。

また、この釣りで重要になってくるのが竿の長さです。通常は短竿でも問題ありませんが、例会などで混雑した場合などは、プレッシャーによる食い渋りや、横並びで魚を取り合うことによつてへら鮒を寄せきれないことがあります。こういうときには、少し長い竿をだしてください。浅ダナなら沖へ、チョーチンなら深めになります。

「ヒゲトロ」セットは、バラケエサがひとつで、しかもハリスの短い釣りなので、寄せ負けることもありません。そこで、魚の取り合いにならないエリアへエサを打つことが重要になります。エサやハリスで対処できる幅が少ない釣りですので、より一層竿の長さが物を言うのです。

## ■実寸大オモリ

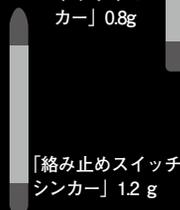
浅ダナ



0.25 mm厚板オモリ 15 mm × 15 mm ~ 17 mm × 23 mm

チョーチン

「絡み止めスイッチシンカー」0.8g



「絡み止めスイッチシンカー」1.2g

0.25 mm厚板オモリ  
17 mm × 25 mm

0.25 mm厚板オモリ  
14 mm × 25 mm

# 2020年版「ヒゲトロ」の使い方

「ヒゲトロ」は盛期のセット釣りに最適なくわせ用トロロエサ。使用法は水に浸してハリに引っ掛けるだけで、良質な繊維がしっかりとハリがかりしてエサ持ち抜群。2020年版はチャック袋を採用したことで、開封後も品質が安定。1度の釣行で使えきれなくても次回もそのまま使用できる。●内容量 18g

2020年版「ヒゲトロ」は品質をキープできるチャック袋を採用。



①袋からトロロを取り出す。長くて強い良質な繊維が特徴。



②使う分だけちぎって取り出す。残りはチャック袋に仕舞っておく。



③繊維が長いので細かくちぎる。



④何度かちぎって細かくした状態。



⑤ちぎった「ヒゲトロ」を手に乗せて水に浸す。



⑥軽く水を絞って小皿などに移す。



⑦「ヒゲトロ」を直接ハリに引っ掛けるだけでOK。掛けるときはハリの子モトを持つと掛けやすい。



## ●タックルセッティング

### ■浅ダナ推奨仕掛け

竿●7～15尺  
ミチイト●1号  
ウキ●ポディー5～8cm細パイプトップまたはPC・グラスムクトップ  
ハリス●上0.5～0.6号8～10cm、  
下0.4～0.5号14～18cm  
ハリ●上6～7号、下4～5号

### ■チョーテン推奨仕掛け

竿●8～13尺  
ミチイト●1～1.2号  
ウキ●ポディー8～12cm細パイプトップまたはPC・グラスムクトップ  
ハリス●上0.5～0.6号10～12cm、  
下0.4～0.5号18～22cm  
ハリ●上7～8号、下5～6号



+



+

### ●エサの大きさ 実寸大

大きめ



小さめ



### ●エサ使いのコツ

できあがったエサを別ボウルに半分ほど小分けし、押し練りをして使い始めます。

まずはエサ付けしてナジミ幅がでるかを確認。トップ先端までしっかりとナジむようにします（沈没するぐらい）。「粘麩」の重さとネバリによってエサ持ちのコントロールがしやすいので、圧を強くすれば必ずナジむはず。もしナジまない場合は、押し練りを何度か行ないます。タナに魚を寄せるためにも、深ナジミを繰り返して時合を作る

# 「ヒゲトロ」セット釣りのブレンドパターン

## エサ付け簡単なネバボソタッチ

### ●パラケブレンド

**「粘麩」100cc+**  
**「バラケマツハ」400cc+**  
**「凄麩」400cc+**  
**水200cc**

### ●作り方

「粘麩」100cc、「バラケマツハ」400cc、「凄麩」400ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてをかき混ぜる。重くてネバる「粘麩」をブレンドするときは、粉の状態ではかの麩エサと混ぜておくことで仕上がりが均一になる。ここに水200ccを入れ、手を熊手状にしてよくかき混ぜて全体にムラがないように仕上げる。

ことを心がけましょう。  
次第に魚が寄り始めるとサワリやアタリがでますが、すぐに釣れなくても構いません。この釣りは尻上がりに釣れるほうがいいので、絶えずエサをタナへ入れておくことが肝心です。ですから、基本的には大きめのバラケを打ち、とにかく寄せに努めます。ウキの動きはでているのにアタリにならないときは、エサを小さくしてみてください。へら鮒がより接近することで「ヒゲトロ」を吸い込み力強いアタリにつながることでしょう。

ウドンセット釣りという  
と、冬の釣りのイメージです  
が、混雑時や極端な食い渋り  
時には、夏でも出番がありま  
す。ただし、この時期の魚は  
バラケエサへの反応が強くな  
りますので、それを踏まえた  
釣り方になります。

一番のポイントは、浅ダナ  
でもチョーチンでも、ウキを  
しっかりとナジませること。つ  
まり、バラケエサをタナまで  
確実に持たせることです。冬  
のように上からバラケを抜い  
しまうと、へら鮒はそのバラ  
けた粒子へ向かってしまいま  
す。すると、ウワズリ傾向に  
なり、肝心なくわせエサへ誘  
導することができません。く  
わせエサにへら鮒を導くに  
は、上からのアプローチでは

なく、タナでのアプローチが  
前提条件となります。

そして、バラケエサへの反  
応があるということは、バラ  
ケエサが付いている状態でア  
タリをだすというのが基本で  
す。深ナジミしたウキが少し  
ずつゆっくり返してくる間に  
アタリがでるイメージです。  
バラケエサが抜けてウドンだ  
けの状態では、アタリがでな  
いか、イトズレなどの空振り  
が多くなります。

夏のウドンセット釣りに有  
効な場合は、両ダンゴのよう  
にエサ自体を食わせる釣りが  
成立しない食い渋りでありな  
がら、ときにはバラケエサを  
食ってくるような活性がある  
という状況。つまり、バラけ  
すぎてもダメですが、バラけ

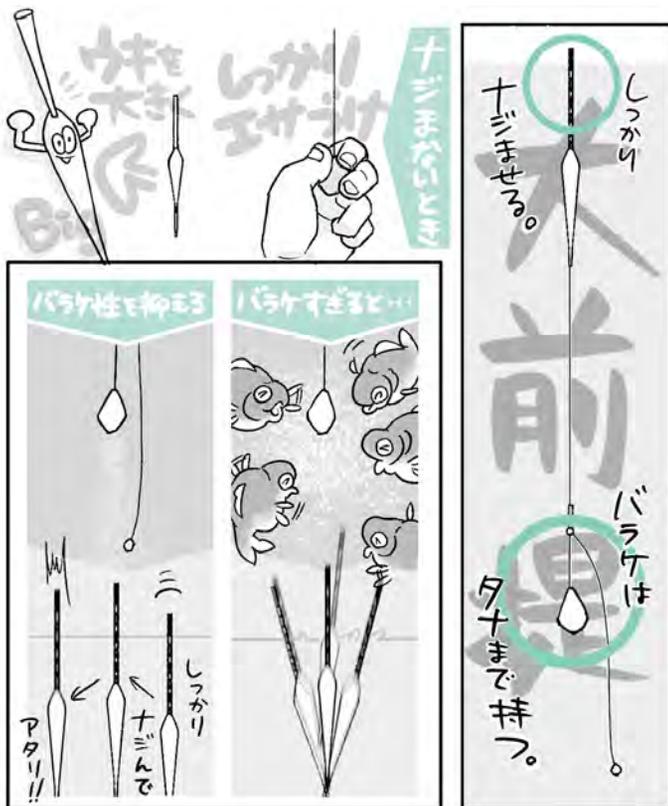
ないのもダメという中途半端  
な場合でもあるわけです。

この中途半端な状態を攻略  
するには、バラケエサはもち  
ろんですが、ハリスワークや  
ハリサイズ、くわせエサの種  
類も重要になってきます。バ  
ラケブレンドは、紹介するも  
ので固定してください。あ  
とはエサの大きさと圧加減で  
しっかりとナジミがでるよう  
に調整するだけです。エサでの  
対応はこのぐらいの範囲に留  
めます。

続いてセッティングの対処  
です。まず、しっかりとナジミ  
幅をだすということは、それ  
なりの大きさのウキが必要に  
なります。ウキが立たないの  
は論外ですが、エサがうまく  
ナジませられないときは、素

# ウドンセット釣りのアプローチ

バラケエサをしっかりとナジませること！



直にウキサイズを大きくしま  
しょう。また、上バリのサイ  
ズを大きくする、下ハリスを  
短くするということのも、バラケ  
エサを持たせることにつなが  
るので覚えておきましょう。

次に、アタリがでるかでな  
いかを見極めます。アタリが  
でない原因は、バラケエサが  
バラけすぎていることをまず  
は疑います。バラケエサを小  
さくしてみる、しっかりと付

てバラケ性を抑えるなどを試  
します。こうすることで、へ  
ら鮎をエサに近づけます。  
また、ハリスが長い、下バ  
リやくわせエサが軽いことで  
下ハリスがたるんでいるた  
め、食いアタリのウキへの伝  
達がうまくいかない場合もあ  
ります。くわせエサ、ハリス  
の長さ、ハリサイズをひとつ  
ずつチェックしましょう。

続いてカラツンですが、こ  
れも似たような原因によるイ  
トズレなどが多いと思いま  
す。ですので、アタリがでな  
い場合と同じ対処を行なうこ  
とで解消できます。どうして  
も解消できないなら、そのと  
きは「ヒゲトロ」セットや両  
ダンゴの時と判断して釣り  
方を変更しましょう。

浅ダナブレンド

「セットアップ」150cc+  
「セット専用バラケ」150cc



●エサの大きさ

実寸大



チョーチンブレンド

「セットアップ」100cc+  
「セット専用バラケ」100cc+  
「BB フラッシュ」100cc



●エサの大きさ

実寸大



# ウドンセット釣りのブレンドパターン

種類厳選で浅ダナ&チョーチンに対応する！

## ●バラケブレンド

**「粒戦」100cc+**  
**「とろスイミー」50cc+**  
**「セットガン」100cc+**  
**水200cc+**



+



+



+



## ●作り方

「粒戦」100 cc、「とろスイミー」50 cc、「セットガン」100 ccをエサボウルに入れ、ここに水200 ccを注ぐ。かき混ぜてドロドロの状態です5分放置。ここに浅ダナなら「セットアップ」150 cc、「セット専用バラケ」150 cc、チョーチンなら「セットアップ」100 cc、「セット専用バラケ」100 cc、「BBフラッシュ」100 ccを入れ、ダメができないよう指を熊手状に開いて大きくかき混ぜる。

## ●エサ使いのコツ

盛期のウドンセット釣りは、バラケエサを必ずナジませることがポイント。かといってダンゴエサのように練り込んで持たせては、肝心なバラケ性が失われ、セット釣りの意味がありません。

そこで覚えておきたいのがエサ付け方法。よくチモトをギュツと押さえてという表現を聞くと思いますが、この押さえ方がポイントなのです。エサ付けはどうしても自分のやりやすい方法になりがちです。自分なりの付

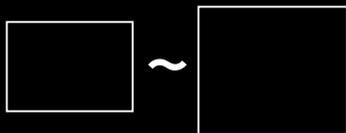
け方でエサ持ちをコントロールできればよいのですが、それが上手くできないという人は注目してください。

写真①のように親指人差し指、中指の指先でしっかりとエサを押さえてエサ付けしていますか？チモトをギュツと押さえてエサ持ちをよくするには、この付け方が一番有効です。

よくエサ付けがあまい人、エサが上手く持たせられない人にありがちなのが、写真②のように指の腹と親指でエサを押さえて付けるパターン。こ

### ■実寸大オモリ

#### 浅ダナ

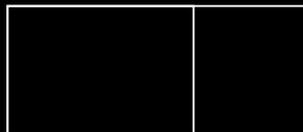


0.25 mm厚板オモリ 12 mm × 17 mm ~ 17 mm × 20 mm

#### チョーチン

0.25 mm厚板オモリ  
17 mm × 25 mm

0.25 mm厚板オモリ  
17 mm × 40 mm



# バラケエサの付け方でスキルアップ

## ●くわせエサ

夏場は「魚信」や「カ玉ハードⅡ」がメイン。ただ、その日の活性によってくわせエサを使い分ける必要もあるので「感嘆」、「感嘆Ⅱ」も用意しておきましょう。



のエサ付けですと、バラけやすいエサの場合、せつかく丸めたエサが崩れることがあったり、エサは持つてもすぐに抜けたりしやすいのです。エサボウルからエサを



写真①



写真②

つまむときも指先、丸めるのも指先、エサ付けも指先という意識でエサ付けすれば、ウドンセット釣りのスキルがワンランクアップするでしょう。

## ●タックルセッティング

### ■浅ダナ推奨仕掛け

竿●7～10尺  
ミチイト●0.8～1号  
ウキ●ポディー5～7cmパイプトップまたはPCムクトップ  
ハリス●上0.5～0.6号6～8cm、  
下0.4～0.5号25～35cm  
ハリ●上6～8号、下3～5号

### ■チョーテン推奨仕掛け

竿●7～10尺  
ミチイト●1～1.2号  
ウキ●ポディー8～12cmパイプトップまたはPCムクトップ  
ハリス●上0.5～0.6号8～10cm、  
下0.5号25～50cm  
ハリ●上7～9号、下4～6号

1年中楽しめる底釣りですが、活性が高い夏や秋口は注意が必要です。それはウキがよく動くことで、ついつい早アワセになり、気づくとウワズリを招いてしまうことです。そうならないためにも、基本に忠実な釣りを心がける必要があります。

なりやすい。これもへら鯛がウワズる原因にもなってくるのです。これを防ぐにはエサを確実に底まで持たせることです。エサをしつかりハリ付けする、エサに押し練りを加えてエサ持ちをよくするといった対応が求められます。

ときは冷静になって、早いアタリを見送って確実な底釣りにしたいアタリに的をしぼってみましよう。底釣りはヒット率重視の釣りです。乗らないアタリを追いかけても意味はありません。最後は基本に戻ることが肝要です。

底釣りで基本となるのが、ナジミ幅です。両ダンゴの場合、3〜4目盛りのナジミ幅をだすのが一般的です。打ち始めはこのナジミ幅がきちんとでていても、次第に魚が寄ってくるとエサが魚にもまれ、ナジミ幅が少なくなります。ナジミ幅が減るということはハリに残っているエサ量が少ないということです。つまり、エサが持たない状態に

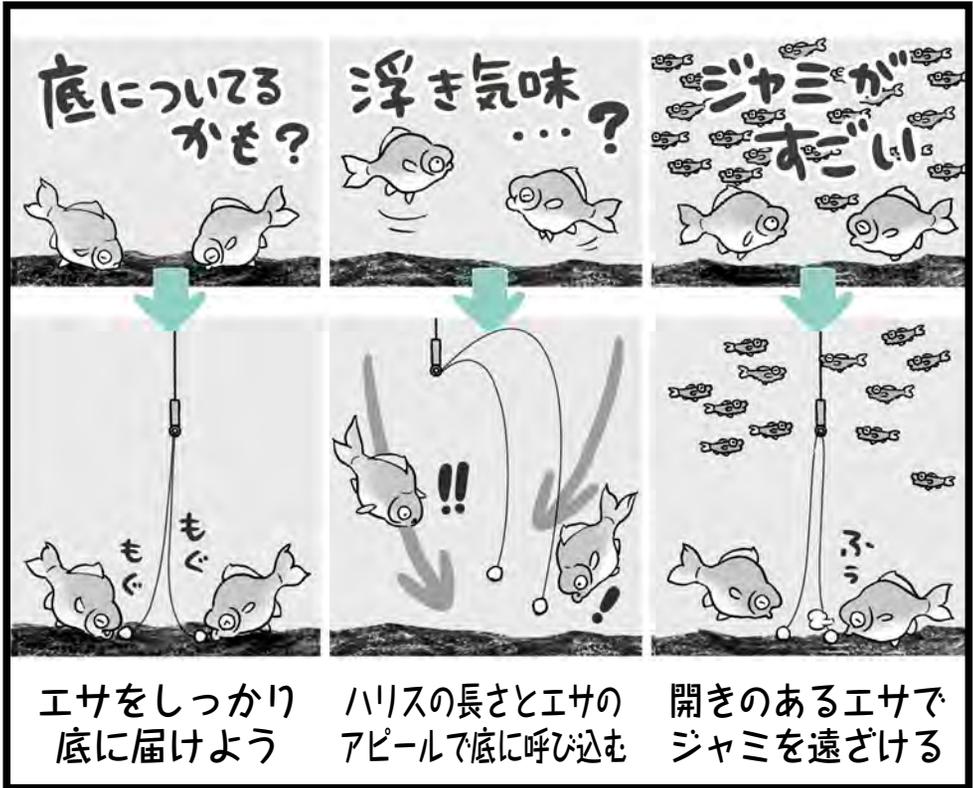
また、ウキが動くことで、たくさん釣れる、釣ろうとして早いタイミングのアタリにも手をだしたくなります。もちろん、積極的にアワせていくことは悪いことではありません。早いアタリで釣れてくれば文句ナシです。しかし、このアタリで空振りが目立つときは要注意。アタリがでてくるからと、どんどん攻めてしまいがちですが、こういう

底釣りはエサで対応できる幅が少ない釣りです。タックルセッティングでの対応幅も狭いです。そこで鍵になるのがエサブレンドです。底釣りのエサブレンドは、どれもその差がないように思うかもしれませんが、その僅かな差で魚の反応は大きく変わります。

たとえば、重さの違い、膨らみの違い、バラケ性の違いなど、エサを作って丸めて

# 底釣りのアプローチ

エサブレンドを打ち分けるのが近道！



しまえば大差ないようエサでも、ブレンドの違いで劇的に釣れるようになることもあるのが底釣りです。

使い慣れたブレンドで釣れないとき、今日は底釣りはダメだなどあきらめず、違ったブレンドのエサも試してください。実際にエサを打つてみれば、明らかにこれがいいとはつきり分かることもあります。へら鰯が底にピツタリ着いている、浮き気味、ジャミが多いなど、ことなる状況に対してエサブレンドが変わるのは必然。こういうときはこのブレンドと一概には言い切れませんが、いくつか違ったねらいのブレンドを打ち分けることが正解への近道です。

## ● タックルセッティング

### ■ 推奨仕掛け

竿●水深に合わせる（チョーテンで底が取れるのがベスト）

ミチイト●1号（フロロ）

ウキ●ボディー8～16cm細パイプトップ

ハリス●0.5号上35～45cm、下43～55cm

ハリ●上下4～6号

### ■ 実寸大オモリ

●水深2～3m

「絡み止めスイッチシ  
ンカー」0.8g + 0.25  
mm厚板オモリ8mm ×  
30mm

+



●水深2～3m

●水深4m前後

「絡み止めスイッチシ  
ンカー」1.2g + 0.25  
mm厚板オモリ8mm ×  
30mm

+



●水深4m前後

## ● エサの大きさ

実寸大



## ● エサ使いのコツ

できあがったエサを別  
ボウルに3分の1ほど小  
分けし、押し練りを加え

てエアアを抜いてから使  
い始めます。まずは丸め  
てエサ付けしてナジミ幅  
がでるかを確認。意図す  
るナジミ幅がでるまで押

し練りを加えます。  
次第に魚が寄ってウキ  
に動きが始めるでしょ  
う。この際に、自分の基  
準とするナジミ幅をキ  
ープするために、ウキの動  
きを見ながら随時押し練  
りを加えます。あとはエ  
サの大きさの調整。食い  
アタリがしやすいエサの  
大きさを探ります。もち  
ろん、このときもナジミ  
幅はキープします。

# 底釣りのブレンドパターン①

開きと膨らみでアピールするブレンド

## ●エサブレンド

「ダンゴの底釣り夏」50cc＋  
「ダンゴの底釣り冬」50cc＋  
「GD」50cc＋  
水100cc＋  
「バラケマッハ」150cc



## ●作り方

「ダンゴの底釣り夏」50 cc、「ダンゴの底釣り冬」50 cc、「GD」50 ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてをかき混ぜる。ここに水100 ccを入れてドロドロの状態にする。さらに「バラケマッハ」150 ccを入れ、よくかき混ぜて全体にムラがないようにする。ボウルの隅に寄せしばらく置いて完成。5分以上置いてから使い始める。



# 底釣りのブレンドパターン②

最盛期に有効なペレット系ブレンド

## ●エサブレンド

**「ペレ底」100cc+**  
**「ダンゴの底釣り冬」50cc+**  
**水 100cc+**  
**「ダンゴの底釣り夏」50cc**



+



+



+



## ●作り方

「ペレ底」100cc、「ダンゴの底釣り冬」50ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてをかき混ぜる。ここに水100ccを入れてドロドロの状態にする。さらに「ダンゴの底釣り夏」50ccを入れ、よくかき混ぜて全体にムラがないようにする。ボウルの隅に寄せしばらくおいて完成。5分以上置いてから使い始める。

# 底釣りのブレンドパターン③

秋に有効なグルダンゴブレンド

## ●エサブレンド

「ダンゴの底釣り夏」50cc＋  
「ダンゴの底釣り冬」50cc＋  
「バラケマッハ」50cc＋  
水150cc＋  
「凄グル」100cc



＋



＋



＋

## ●作り方

「ダンゴの底釣り夏」50 cc、「ダンゴの底釣り冬」50 cc、「バラケマッハ」50 ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてをかき混ぜる。ここに水150 ccを入れてドロドロの状態にする。時間を置かず「凄グル」100 ccを入れ20回ほどかき混ぜる。このとき、あまりかき混ぜすぎるとグルテンのネバリが強くなるので要注意。ボウルの隅に寄せしばらくおいて完成。



＋





新発売

●コウテン 430g(チャック袋)

# 万能とは、 こういうこと。

練りこまなくても簡単にハリに付けられるまとまりの良さ。  
しっかりとナジミが入り、途中で割れ落ちすることなくジワジワとウキが返す理想的なバラケ性。  
軟らかく仕上げて最後までしっかりとハリに残り、明快な食いアタリを誘発するエサの芯。  
沈む速さや開き具合など、相手の特性によって大まかな方向性が決められるブレンド性の高さ。  
浅いタナでもチョーチンでも、余すところなく性能を発揮する対応幅の広さ。  
中庸でありながら、これらすべてのバランスを高次元で兼ね備えた  
「万能」の名に恥じないハイスペックなポテンシャル。  
これからのスタンダードとなる両ダンゴ用ベースエサ、「コウテン」登場。



Twitter、  
Facebookで情報配信中!

丸 マルキュー株式会社

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL.048-728-0909  
ホームページアドレス <https://www.marukyu.com/>

2020.06.M.17000